

個人質問(6月20日) 西山あさみ議員

新堀川悪臭の原因調査と対策を 待機児童対策 親の願いに沿って

西山あさみ議員は6月20日の本会議で、新堀川の悪臭対策と待機児童の対策を求めました。

切実な住民の声

まず西山議員は、新堀川上流部(名古屋市中区)の悪臭問題について質問。「環境局の水質調査では水質目標値は達成しているものの、悪臭による住民からの苦情が多く寄せられています」と、昨年12月から今年1月にかけて実施したアンケート調査への切実な声を紹介しました。

- ・暑い季節だけでなく、冬ですら悪臭がする。
- ・臭いが強いので、窓を開けられない日がある。
- ・窓を閉めていても部屋に臭いが入ってくる。

夏場に集中的な調査を

西山議員は、「水質調査だけではなく悪臭の分析が必要」と指摘するとともに、住民の認識と環境局の把握している数値のズレを縮めるためにも、「臭いがひどいと思われる夏場に集中的に悪臭の原因調査を」と求めました。

環境局長は、悪臭の発生原因を特定するため、新堀川上流部の3地点で今年度から定期的な調査を始め、今まで20回の調査をおこなったと報告。現段階で、分析が必要とされる悪臭の発生は確認できていないが、今後も定期的に調査を実施し、悪臭の発生状況に応じて空気を採取し、環境科学調査センターにて分析を行う、夏場の集中的な調査も実施時期を含めて検討して

いきたい、と答弁しました。

隠れ待機児童

続けて西山議員は、保育所等の利用保留児童、いわゆる「隠れ待機児童」の問題を取り上げました。

名古屋市は、国の定義に基づく待機児童数は3年連続ゼロですが、保育所、認定こども園、地域型保育事業を利用できていない児童＝利用保留児童は585人います。西山議員は、この585人は、市町村が保育義務を負うべき児童であるとの認識か質問。

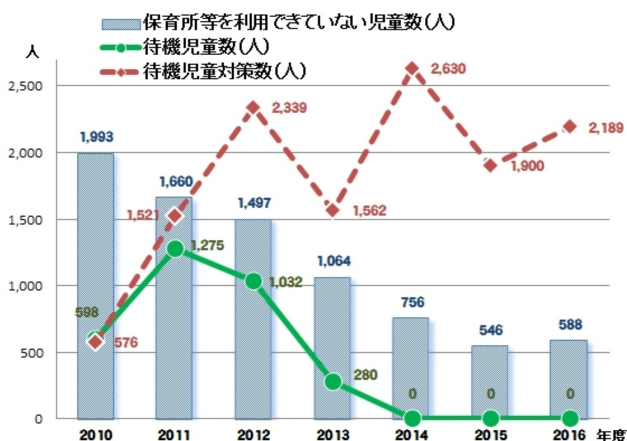
子ども青少年局長は、「本市としては、保育を必要とする場合において、保育所等の利用を申し込まれた子供たちが、保育所等を利用できるようにしていく必要がある」と答弁し、様々な事情により利用を保留されているが、今後も待機児童対策に取り組み、個々のニーズにきめ細やかに対応していくことが重要、との認識を示しました。

認可保育所の増設を

西山議員は、保護者が求めている保育施設は“認可保育所”であるとの声を紹介し、認可保育所の増設を求めました。



待機児童の推移(名古屋市)



隠れ待機児の区別状況

